

令和 5 年度厚生文教常任委員会の抽出事業 ～学習・生活の場である学校教育環境整備～

1 教育環境の現状と今後

新型コロナウイルス感染は、教育活動にも大きな影響を余儀なくされた。まだまだ収束には至っていないが、新型コロナの 5 類移行に伴い社会生活の行動も緩和され、教育活動も日常に戻りつつある。そのような中、ICT を活用した学習環境の整備、地域全体で子どもを育むコミュニティ・スクールのとりくみも進んでいる。その成果および課題について日常的な現状把握も必要である。

また、令和 5 年度教育行政執行方針に示された義務教育 9 年間を見通した「めむろ未来学」等の推進による、小中一貫教育の基本方針策定に注視していきたい。

少子化が進む中、次世代を担う子どもたちを学校現場そして地域全体でいかに育てていくかは喫緊の課題である。子どもと先生方が向き合える時間の確保、そのためにも「芽室町立学校における働き方改革推進プラン」の実効性のあるとりくみが望まれる。国から、「休日の部活動の地域移行」が提起されている。地域移行における町の課題等について調査研究を進める。

2 令和 5 年 6 月 1 日開催の厚生文教常任委員会 MTG（抽出事業について）

（1）令和 4 年度の厚生文教常任委員会の総括から、調査継続の必要性がある。

○次期芽室町立小中学校配置計画（令和 9 年～16 年度予定）の課題の検討

○小中一貫教育の調査研究の継続

（2）休日の部活動の地域移行の課題と「働き方改革」としての課題。

（3）少子化により教育の場において様々な課題が想定される。中長期的な教育についての調査研究は必至。

教育を取り巻く諸課題について、所管課はもとより教育関係者等の意見聴取の機会を設け、「芽室の教育」について厚生文教常任委員会として調査研究を進める。

3 取り組み

（1）今、何が課題なのか（現状の把握）

（2）地域と学校（教育関係者等との意見交換）

（3）教育を取り巻く諸課題の研究（先進事例等）